主の祈り　知っておきたいキリスト教のことば　(97)

「わたしたちにも祈りを教えてください」、その弟子たちの求めに応え、イエス様が教えられた祈りが「主の祈り」です。マタイとルカの福音書にあるこの祈りは、教会で最も多く用いられているものです。



この祈りは前半と後半の 3 つずつに分けることができます。前半では神さまのみ名が聖とされること、み国が来ること、み心がなされることを願います。神の国と神の義を求めることが信仰生活の基本であると、主の祈りは教えてくれます。わたしたちは主の祈りを祈るときに、神さまを第一に考える生活をするようにと促されるのです。

また後半では、日ごとの糧、罪の赦し、誘惑からの救いを求めます。これらは人間に関することです。前半で神さまの栄光を求め、そして後半で自分の心身のために祈るのです。

またルカによる福音書でイエス様は、神さまに対して「父よ」と呼びかけるように、弟子たちに教えます。遠い存在ではなく、いつもわたしたちのことを気にかけてくれる存在。それが神さまなのです。

ちなみに聖公会やプロテスタント教会の主の祈りには、「国と力と栄光は、永遠にあなたのものです」という頌栄がついています。しかし聖書にある主の祈りには、頌栄はありません。ユダヤ教や初期キリスト教での公の礼拝で頌栄も用いられていたため、主の祈りにも後から付加されたのだと考えられています。

ただしカトリック教会の礼拝では頌栄は唱えませんので、カトリックの礼拝に出ていつもの調子で張り切って大声で唱えてしまうと、少し恥ずかしい思いをするかもしれません。

次回は「主の日」です。お楽しみに。